

これからのことを…4の(14)

●方丈記を読んでみて(一)



昨年のごと

昨年4月末、10年間当たり前にまるごと館で行っていたことがほとんどできなくなったのが関係していたのでしょうか。公園の藤の花を見て涙ができました。今から思うと自分のことで精いっぱい周りを見る余裕がなかったのでしょうか。このことで自分にとってのまるごと館の重さを自覚しました。

その時、まるごと館に来られる方々からお声をかけていただき、とても嬉しく力が湧いてくるようでした。

方丈記のごと

八幡まるごと館だより

2021年8月9日/141号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20

(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

方丈記を学ぶことで「今と深くつながること。自分を取り戻すための場所、方法をもつこと」ができるのではないかという文を目にしました。方丈記は多くの読者に読み継がれてきて800年という時に耐え、特に戦後すぐ、東日本大震災、このコロナ禍という災害時に多くの方々に読まれてきた古典です。私自身が陥った所から一歩でも立ち上がることができたら、という思いで方丈記の読み始めたんです。

今の状況は辛い、悲しい

このコロナ禍でそういうことは多くの方が経験されていることです。お一人おひとりそれぞれの事情を抱えておられ、特別私だけのことではありません。中には仕事がなくなって食べるのにも困っておられる方々、中には自ら命を絶った方も。病院や施設では身内の者に会えないですし、医療関係の仕事がされておられる方は休む時間もなくずっと働いておられます。そんな中

のオリンピック。ボランティアのお弁当当13万食が残り、廃棄。賞味期限前のものだそうです。金額にして1億円以上。少しでも使うお金を節約して過ごす庶民からは到底考えられない感覚です。当初オリンピック予算7000億円だったのが総費用4兆円とも言われています。子供や孫の世代に付けが回されるのでしょうか。また、今までは不明だった色々な、とんでもないことも明らかに。4年に1回のこともかもしれませんが、オリンピックには疑問しか持てないです。このコロナ禍の中で苦しむ方がでないように祈るばかりです。そうすることしか出来ませんが。

方丈記を読む

先月号にも書きましたが、方丈記も書き進めて早1年になります。

古文も歴史も苦手な私が続けられたのはこの方丈記が40ページにも満たない、ちゃんと訳文があってわからなければそちらで読めるという条件があったからです。それに、時間と共に興味を持って下さる方々が声をかけて下さって、そのことがとても大きな励みになりました。

初めは余裕がなく、ただひたすら原文と現代訳文の組み合わせを書きました。自分の意見を書けそうな所だけ書いて。あきらめずに読んで良かったという気持ちが強いです。

方丈記から感じたこと

『ゆく河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。～、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖と、またかくのごとし』で始まる方丈記。河の流れは絶えるこ

とがなく、しかももとの水ではない、世の中にある人間も住まいも、またこれと同じようなものであると詠われ、無常の文学だとよく言われます。

方丈記前半には長明さんが23歳から31歳頃に自分の足でくまなく歩いて見て、5大災厄としてとても詳しく書いています。その部分から私なりに感じたことを。

『乞食、路のほとりに多く憂い悲しむ声、耳に満てり』

悲しむ声さえ上げられない道端の民の声を聴く耳を持てるだろうか。

『～さりがたき妻、夫持ちたるものは、その思ひまさりて、深きもの、必ず先だちて死ぬ。～』

飢えや疫病が2年も続き、悲しいことだけれど、無常では語ることが出来ない、時を越えて今でも響く常なるもの、人と人の気持ちがつながって、誤解を恐れずに言えば、明かりが見えてくるような力強い所。

『～また母の命尽きたるを知らずして、いとけなき子の、なほ乳を吸いつつ、伏せるなどもありけり。』

弱者に対する長明さんの目線にも気持ちが動きます。

前半部分では、今のことから目をそむけずに見るということかと。声をだせずに苦しんでいる方々、報道されないと見えにくいですが、長明さんがくまなく歩いたことが理解できるように。そういう視点を自分の中に持てたら、以前のようにゆらゆらすることもないように思います。これが今とつながることかと。それに人とつながりも加えて。次回に続きます。

八幡まると館
絵でがみ作品展
 6日 2021 6/24(木) 7/4(日)
 9時～17時30分
 但し6/30(水) 休館
 口野町 八幡市文化センター
 ミニギャラリー
 主催 八幡まると館



文化センターミニギャラリーで6月24日から7月4日まで開催されました。講師の森本玲子さんには本当にお世話になりました。こんな時でしたが、延べ100名をこえる方々が来て下さって感謝しています。以前にも書きましたが、それぞれが楽しんで描ける雰囲気です。出展者が例年に比べ、6、7人も少なくても

不安な感じが、多くの方がお声かけ下さって、不安も吹き飛びました。ノートに感想を書いて下さって、これからの励みになります。また準備、片付けには沢山の方のご協力と文化センターの西山さんが動いて下さって、おかげ様で随分の時間短縮ができましたし、楽しかったです。皆様本当にありがとうございました。次回に向けても精一杯取り組んでまいりたいと思っております。

＜7月にこんなことをしました＞



12日 前回より全員が集まる体制を。しばらくのお休みがありましたので、普段の調子を取り戻されるのには時間がかかるでしょうが、ゆっくりと何回も繰り返して、皆で歩めるのが理想です。丸

6年を経過して、初めの頃に比べたら音もスムーズに出せるようになりました。少しは曲を楽しむことが出来るように。練習を続けてきた成果だと思います。そして皆で歩めたら、

絵手紙講習会



14日 毎回、まると館の野菜生産者の方々から絵手紙の日だからと野菜や花を頂いたり、買ったりして題材を揃えています。この日は講師の森本玲子さんがサザエヤトビウオ、サクラガボを持って来て下さって、参加者は少なかった

ですが、雷がなる中、皆さんが意欲的に取り組んでおられました。この8年間で筆を持つことにも慣れて、色々な種類の題材に挑戦してみる気持ちも少しずつ芽生え、楽しんで描いています。作品を壁面に掲示しています。



22日 この日出口修さんは前回に続き安居神事を。頭役の家と壇所と井関坊の3か所に壇築。この時の頭役の橋本の山田さんの家の御壇の土は狩尾から運ばれてきたというこ

とです。地域によっては安居塚からということも。この地名の由来もこの神事から。段取りがちやんと頭に入ってないと、全てがうまく回りません。誰か総監督のような方がいて、各分野の責任者もいて、初めて安居神事が成り立つのではと思う程沢山の事がありました。



30日 必要なものを準備して下さって楽しかったです。ベンハムのコマと言われるもので、円の真中の穴にボルトとナットをつけ直し



ますが、円の上に同じ大きさの紙に右のような紙を乗せ回すと黒い部分は見えなくていくつもの直径の違う円が見えます。しかも色まで。錯視と。色鉛筆で色々書いて試しました。宮地さんありがとうございました。

八幡まると館 8月・9月の予定 休館します 8月13日(金)～17日(火)

＜パソコン教室＞	毎週月曜日 10時～12時です
8月2日(月)10時～12時	8月23日、30日 パソコンを持って来て下さい。費用300円(コーヒーつき) 9日、16日は休みます
＜オカリナクラブ ひまわり＞	楽しめる時に。練習日は月曜日だけに
8月2日(月)13時～	参加費100円 23日、30日です。 9日と16日は休みます
＜歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N031＞	
8月25日(水)13時30分～	講師出口修さん 参加費100円 月1回です
＜絵手紙講習会＞	8月はお休みです
9月8日(水)午後1時30分～	講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき)
＜楽しい理科の実験 N040 ポップアップカード＞	持ち物ハサミ、カッター
9月24日(金)13時30分～	講師木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)

＜あなごと・こんごと＞
 * 800年も前に書かれた方丈記から今を読み解くことが出来るのではないかと思います。読み継がれるということの意味がわかります。それぞれの時代は状況が随分違うのに対応できているんですね。同じことをだらだらと書いてきました。そして遅くなりました。まだ方丈記が続きます。どうぞお付き合い下さい。
 * このコロナ禍の中で、講習会ができています。講師の方々、参加者の方々に感謝しています。
 * カブトムシをたくさんいただきました。4人の方に渡し、皆さん大喜び！ほしい方まだもう少し大丈夫です。メダカも水槽の中で元気よく。ありがとうございました。(うえたに じゅんこ)